

4 特定非営利活動法人三波川ふるさと児童館「あそびの学校」

活動のテーマ：3世代交流の居場所「ALWAYSあそびの学校」

活動の特徴

定常的な子どもの居場所とあわせて多世代の居場所づくりも展開



活動対象地域 群馬県藤岡市



キーワード

子ども 中高年 居場所

団体のミッション

「子どもたちに豊かな自然、あそび、文化を伝えよう」をメインスローガンとし、学校外での子どもの育ち、あそびの伝承、地域づくりを目的にしている。

助成対象活動の背景

住民が寄贈した古民家の活用を市から打診されて、これまで行ってきた子どもの居場所づくりを拡大し、多世代が交流する居場所づくりを目指す。

この団体とは・・・

廃校、商店街の空き地等を活用して子どもの遊び場づくりを行ってきた元児童館職員と支援する人々の集まり

活動内容

- ・小学生を対象とした放課後の居場所づくり
- ・中高年を対象とした居場所づくり
- ・乳幼児と母親を対象とした居場所づくり

団体設立時期 2001年4月
代表者 山崎 茂
連絡担当者 同上
連絡先 住所 〒370-1405 群馬県藤岡市三波川 1869-2 旧三波川中学校内
電話 0274-52-6530
FAX 同上
E-Mail npoasobinogakko@yahoo.co.jp
ホームページ <http://happy.ap.teacup.com/npo-asobinogakko/>

1. 団体の設立経緯と目的

本「あそびの学校」では、埼玉県富士見市で26年間児童館職員として勤務していた現代表(山崎茂)が、群馬県鬼石町(現藤岡市)の山間部、木造校舎の廃校を購入し、2001年4月に民営の児童館を開館以降、子どもの健全育成支援活動を行っています。児童館設立にあたって「甦れ木造校舎と子どもたち」を目標に、市民運営型をめざし、運営委員とスタッフ、組織を支える会員を募りました。2005年9月に特定非営利活動法人に認証されています。

目的としては、定款にあるように、「子どもの権利条約」第31条を踏まえ、「子どもたちに豊かな自然、あそび、文化を伝えよう」をメインスローガンとし、21世紀をになう青少年を育成し、同時に、子どもをとりまく環境等の健全な発展を目指すことにおいています。

具体的には、子どもをとりまく環境の急激な変化とそれに伴う子どもの健全な育ちに対する危惧があります。20年程前のファミコンブームから現在のゲームの普及に至る過程で、これまでのあそびの様相がすっかり変わり、また学校教育の肥大化によって地域の子ども社会とあそびが失われていく状況にあります。これをなんとか打開できないかということが、私たち団体の設立のきっかけとなっています。

開校以降8年目ですが、ますます子どもの環境は悪化しています。ここ数年の放課後の事件の多発は、いまや親にとって「子どもは地域であそばせられない」状況を生み出し、子どものストレスは増大し、子どもの成長発達にとって欠かせないあそびの危機と言える状況を生み出しています。



多世代の居場所として活用している古民家の外観

2. これまでの実績

2001年4月開校

市内各地域に毎日移動車両「あそびの出前」号で赴く「移動児童館」事業スタート～2005年度 夏休みキャンプ事業スタート～現在

2002年度

移動児童館活動 NHK テレビタ方の首都圏ニュースで生中継(10/16)

移動児童館活動子ども未来財団発行「こども未来」掲載

夏休み特別企画展「お父さんの少年時代～昭和30年のあそび展～」開催(8/11～25) 国立こどもの城企画

秋の特別企画展「甦れ木造校舎写真展」開催(11/18～12/1) NHK テレビ「おはよう日本」で放映

2003年度

秋の特別企画展第2回「甦れ木造校舎と子どもたち写真展」開催(11/22から5日間)

2004年度

移動児童館午前の子育て版、NHK 教育テレビ子育て番組「すくすく」で放映(9/16)

秋の特別企画展第3回「甦れ木造校舎と子どもたち写真展」開催(11/23から5日間)

あそびの学校についてフジテレビドキュメンタリ-番組「NONFIX」にて放映(1/11)

CS放送ドキュメント番組「エナジ-ピ-プル」にて放映



蔵は主に中高年の居場所になっている

2005 年度

夏休み特別企画ハンディをもったア - テイストや障害者支援団体と共同で企画展「あそびとア - トの不思議な出会い」開催

これまでの移動児童館事業を整理し、藤岡市中心市街地の空き地と空き家を借りて、子どもの常設の居場所「ス - パ - 駄菓子屋・あそびのひろば」開設（12/18）群馬県委託事業

2006 年度

子どもの居場所「ス - パ - 駄菓子屋・あそびのひろば」、NHK テレビ「おはよう日本」で放映
子どものあそびで元気になる「中高年のあそびの学校」開催（11/18 ~ 3月末）群馬県委託事業

2007 年度

藤岡市より無償で市所有の古民家（旧高山医院）を借用し、「ス - パ - 駄菓子屋・あそびのひろば」を移転するとともに、これまでの中高年の事業も加え、地域に子どもから中高年のホットする懐かしの居場所「ALWAYS あそびの学校」開設

3. 助成年度の活動内容

1) 古民家を活用した多世代の居場所づくり

子どもをとりまく環境の深刻化は、大人にとっても急激な変化をもたらしています。地域社会の崩壊によって、人間関係が希薄化し、不登校、引きこもりの若年層の増大、中高年の孤独死、貧困の拡大等、大人も大きなストレスを抱えているのが現状です。こういう中、財団の助成を受けて藤岡市の中心市街地にある古民家に開設した居場所「ALWAYS あそびの学校」の1年目の活動を報告します。



古民家の蔵で開催している「うたごえ喫茶」

テーマは、「子どもも中高年もホットする懐かしの居場所」にし、藤岡市の中心市街地の古民家にふさわしい内容としました。今日の子どもと大人の状況を踏まえた取組みとして初年度は一定の成果を挙げたといえます。

①対象：子ども（主として小学生）

週5日開設し（月と木曜日は休館日）、放課後の居場所として駄菓子屋、あそびの広場（伝承あそび、卓球、バトミントン、どろだんご等）

②対象：中高年者

月2回（土、月）のうたごえ喫茶（年間実施）と最終土曜日開催の懐かしの名画座（10月から3月実施）

③対象：就園前の幼児と母親

毎週水曜日の午前開催のリズム体操等の日常活動と年間4回（春、夏、秋、冬）のイベント活動です。

日常活動の状況は、放課後の子どもの居場所として一昨年からの「ス - パ - 駄菓子屋・あそびのひろば」の活動の蓄積があるため常連の子どもたちは、開設場所が移転しても多くあそびに来ています。しかし、場所が少し遠くなった美九里東小の子どもたちの参加が減少傾向にあります。放課後の子どもたちは、あそびや駄菓子、漫画などでのんびりくつろぎ、子どものホットする居場所としては成果が上がっています。しかし、子どもにあそびを伝えるという目標は、当初は、広い裏庭のひろばを生かしきれずあそびの広がりが今ひとつという状況でした。夏休み以降、この状況を打開し裏庭をいかすことが理事会でも検討され「冒険あそび場」化の方向がだされ、埼玉草加の冒険あそび場への理事会での視察を経て、秋のイベントから木のぼり、



古民家の庭で開催したオープニングイベント

ダンボ - ルの秘密基地づくり野外料理等が内容に加えられました。それ以降、特に基地づくりは大人気で広い裏庭には所狭しと基地が建てられています。現在は、こま回しのバトルが人気のあそびで子どもたちの声が大きく響きわたっています。

小学生の参加者数は、平日の平均が15～20名、土日の平均が30～40名といったところです。また、新年度に入って参加者数の増加（特に男の子）が顕著になってきました。

中高年の日常活動の一つ、うたごえ喫茶は、平均参加者20名前後と定着しており、土曜日開催時は、外で子どもの響く声、土蔵ホ - ルでは中高年のうた声が響き、子どもから中高年の居場所とはこういう場所だといえる状況が見られます。しかし、後半取組んだ「懐かしの名画座」は、冬に向かい寒さと当日の天気によって、リクエストをとって準備した割りに参加者が減少してしまいました。開始当初の参加者数が50名くらいでしたが、その後の平均は20名といったところです。

居場所の午前中を利用して取り組んだ子育て支援の取組みは、これまで5年間地域を回って実施していた「移動児童館」活動の実績はありましたが、この5年間に国を挙げての子育て施策の推進によって、藤岡市に地域子育て支援センターが9ヶ所も開設されたことも影響し、参加親子が増えず（毎回の平均参加者数は親子1～3組）やむなく夏休みサヨナラまつりのイベントを境に2学期からは事業を廃止しました。

なお、この1年間の月別参加者（入場者数）は下記の表の通りです。

月	参加者数	月	参加者数
5月	580名	11月	567名
6月	566名	12月	468名
7月	480名	1月	430名



夏休みイベントでの紙芝居

8月	370名	2月	523名
9月	430名	3月	487名
10月	412名	計	5,313名

2) 地域の住民の反応

この居場所のイベントや紹介の広報宣伝については、地域にある3小学校の全生徒（約2,000名）にそのつどチラシを配布。また、中高年対象の取組みについては毎月地域町内会（5町会）約1,700世帯にチラシを配布し参加を呼びかけるとともに居場所の存在をお知らせしました。その結果、地域の中高年の参加が増えるとともに、地域住民から（コタツ、もちつきの臼と杵、照明器具、手づくり竹とんぼ、けん玉セット4箱（50個入り）などが寄贈されました。また住民（特に高齢者）から「この先生は貧乏人からはお金は取らない立派な先生だった」「あんたたちも頑張んなよ」と激励されることや、反対に屋敷の塀にポスタ - や看板を掲示したら「文化財の建物の景観にそぐわない」と市に電話されるなどいろいろと大変なこともありました。施設を管理、運営する面では、この1年に台風でテントが飛ばされる、強風で古い電柱が倒れる、道路に自転車が飛び出す、あそびにきた子どもの財布やゲ - ムが盗まれる等がありました。

2007年度「ALWAYS あそびの学校」各対象ごとの開催日数集計

	子ども（主に小学生）の居場所	うたごえ喫茶	懐かしの名画座	幼児と母親の居場所
日数計	226日	19日	6日	45日

4. 活動の成果と課題

居場所開設の目的「子どもから中高年のホットする懐かしの居場所」というテーマについては、初年度は



ガレージを改装した駄菓子屋

一定の成果を挙げたといえます。この1年、地域の子どもや中高年、そして市内の子どもや中高年の利用はもとより、市外からの入場者（栃木県足利市からの視察等）も広がっています。

子どもの居場所では全国的に広がる「冒険あそび場」とは違う「駄菓子屋付の遊び場」という形態は、全国でも珍しくこの点でも今後広がる要素が多分にある実践だと考えます。しかし、古民家にふさわしく中高年のあそび（文化）をミックスし、新たな地域づくりをめざすという目標は今後いろいろと課題が多い取り組みです。後半（10月から）に群馬県西部行政事務所から地域振興助成事業に中高年のうたごえ喫茶、名画座が決定し、講師謝礼、映画フィルム賃借料の半額が助成されましたが、不特定多数の参加者を対象とする難しさ（特に冬の時期の中高年事業）は、今後の課題となっています。

施設の管理・運営面での課題については、人的体制面と財政面です。今年度は、H&C財団の助成が施設開設の初年度の成果に大きく影響しています。臨時職員の雇用（土日は学生アルバイトの雇用も）を行い、これまでのス・パ・駄菓子屋より広い施設を運営できました。そのほか、後半にかけて、大学生、高校生の土日ボランティアが増え、土日のイベントの成功に大きく貢献しています。しかし、家賃は無料とはいうものの運営費（人件費、光熱費、事業費等）は、行政の補助は無く、入場料無料で駄菓子の売り上げと中高年事業の参加費等でまかなうという点は大変厳しく、今後の事業の方向が模索されます。

5. 今後の展開

私たちあそびの学校では、子どもから中高年までの



ダンボールを使って秘密基地づくり

居場所「ALWAYS あそびの学校」の初年度の成果と課題を踏まえ、この居場所の有効的な利用方法と運営方法を検討し新たな事業を新年度から実施します。この事業は、この施設を会場とする指導者養成機関あそびの学校附属「あそびの職人・達人養成所」です。これは、「いまこそ地域に子どものあそびを甦らせよう」を合言葉に、魅力的なあそびを伝承普及し、あそび場等地域環境づくりも担える専門家を養成する機関です。講師として、当団体の代表をはじめ伝承あそびの実践家や手づくりおもちゃ職人等が務める予定です。

この事業は、今後の私たちあそびの学校全体の運営方向を左右するもので、この居場所の運営にとっても要となる事業と考えています。初年度はとても大変だと思いますが、なんとか2～3年で定着させ人材面、財政面で打開策を検討し、今日的意義のある事業に展開したいと思います。きたる当法人の定期総会にてこの方針を審議するところです。



懐かしの名画座



木登りに興じる子ども